授業科目名： 日本史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：堀川　徹 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

授業のテーマ

高等学校の地理歴史科の教員を目指す者が、日本史（近世から現代）を多角的に学び、基礎的な知識及び知識を得るための方法論を修得する。

到達目標

・近世から現代までの日本史の大まかな流れを説明できる。
・日本史（近世から現代）に関する歴史的事項を多角的に理解し、説明することができる。
・日本列島のみならず、周辺地域との関連のなかで日本史（近世から現代）を理解し、説明することができる。
・問題意識をもって、自ら主体的に学ぶことができる。
・歴史的事項の因果関係・相関関係について理解し、説明することができる。

授業の概要

日本史（近世から現代）について、周辺地域との関りに留意しながら概観する。単に歴史的事項の羅列にとどまらず、歴史的事項の因果関係・相関関係に着目する。

授業計画

第１回：近世という時代・織豊政権―テキスト①1 章・2 章―
第２回：幕藩体制の成立と朝廷―テキスト①3 章～5 章―
第３回：近世の対外関係―テキスト①6 章～8 章―
第４回：東アジアの「首都」と日本列島の町―テキスト①9 章・10 章―
第５回：大坂における非人集団―テキスト①11 章・12 章―
第６回：近世の村の形成と身分的周縁―テキスト①13 章・14 章―
第７回：近世の村―テキスト①15 章～17 章―
第８回：近世の流通と経済―テキスト①18 章～20 章―
第９回：近代の国際化―テキスト②1 章・2 章―
第１０回：近代の対外関係―テキスト②3 章～5 章―
第１１回：条約改正と憲法発布―テキスト②6 章・7 章―
第１２回：日清・日露戦争と日本の植民地政策―テキスト②8 章～10 章―
第１３回：デモクラシーと国際協調―テキスト②1 章～13 章―
第１４回：近代の経済外交と経済政策論争―テキスト②14 章・15 章―
第１５回：戦時から戦後へ―テキスト②16 章～20 章―
定期試験

教科書

①杉森哲也編『大学の日本史③近世』山川出版社、2016
②小風秀雅編『大学の日本史④近代』山川出版社、2016

参考文献

・木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016
・岩波新書　シリーズ日本近世史　全５冊
・岩波新書　シリーズ日本近現代史　全 10 冊
・小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP 新書、2004
・小田中直樹『歴史学のトリセツ』ちくまプリマ―新書、2022
・教科書に記載されている参考文献をもとに、受講生自らが収集する。
・手島純編『社会科・地歴科・公民科指導法』星槎大学出版会、2022
→なお、手島純編『社会科・地歴科・公民科指導法』は本科目とは直接関係しませんが、中学社会・高校地歴の免許取得を目指している学生は手元にあると良いでしょう。

学生に対する評価

レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。